

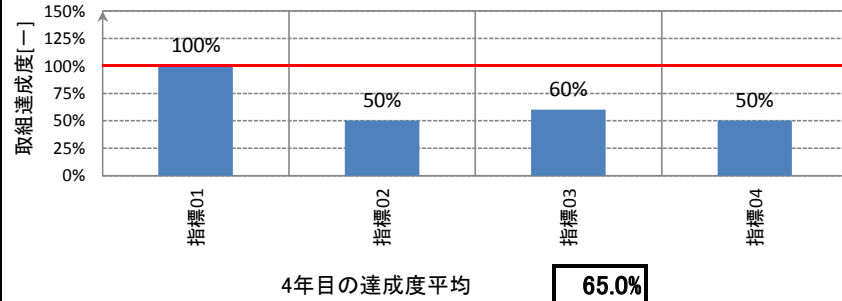
宮城県 岩沼市

人口: 44,242人、17,202世帯(平成28年3月末現在)
 就業人口: 20,847人(平成22年10月1日時点)
 市内GDP: 1,923億円(平成24年度)
 面積: 60.45km²(うち森林面積12.85km²)

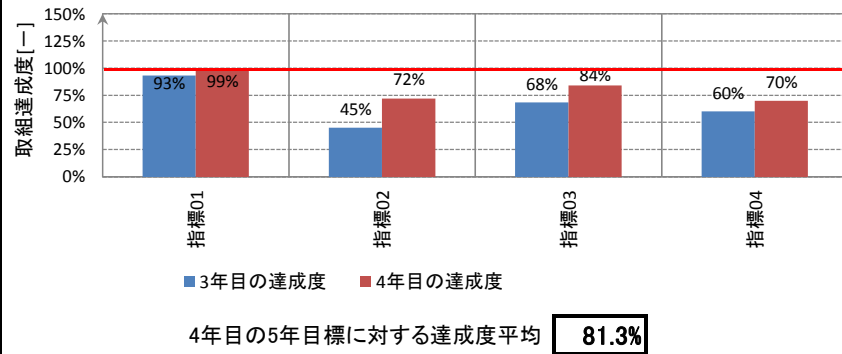
取組進捗評価結果(都市による自主評価に基づく達成度)

Q1. 環境的価値

1年毎の目標値に対する達成度

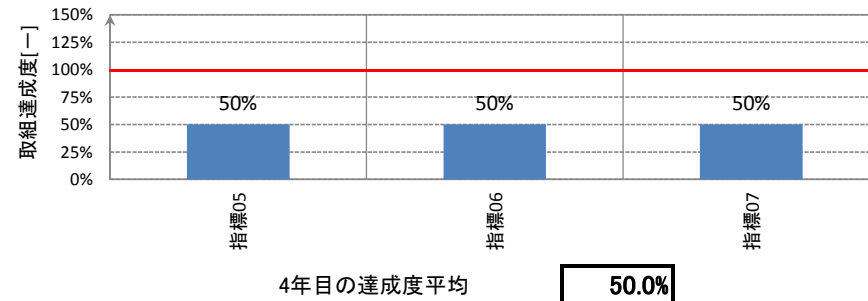


5年後の目標に対する達成度

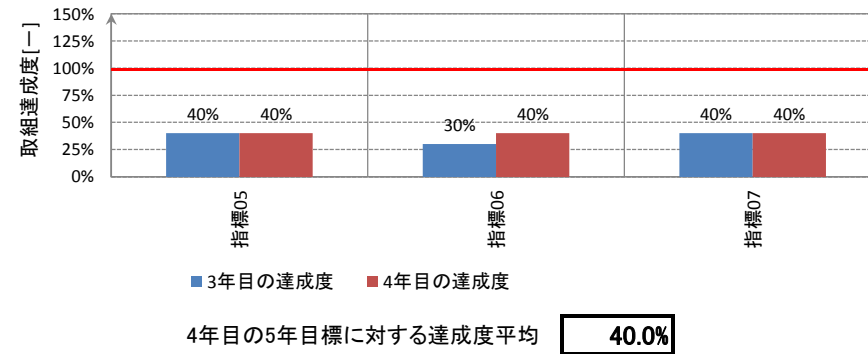


Q2. 社会的価値

1年毎の目標値に対する達成度



5年後の目標に対する達成度

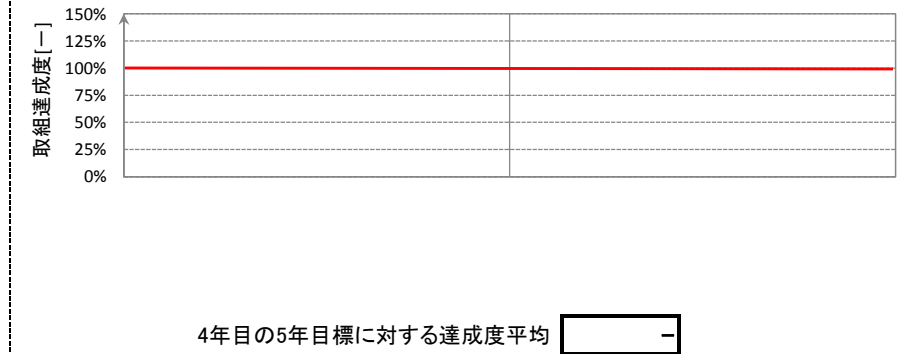


Q3. 経済的価値

1年毎の目標値に対する達成度



5年後の目標に対する達成度



指標番号	指標名
指標01	沿岸部から市東部へのエココンパクトシティへの集団移転
指標02	がれきを活用した「千年希望の丘」の造成
指標03	がれきの有効利用
指標04	メガソーラー事業者の誘致及び売電、EVバスの導入エココンパクトシティ内への非常時の電力供給
指標05	植物工場等の次世代アグリビジネスによる被災者の雇用創出
指標06	自然共生・国際医療産業都市の整備に向けた企業誘致
指標07	エココンパクトシティに整備された福祉施設や高齢者住宅と提携した医療機関等とのネットワークを構築させる。

Q4. 特記したい事項(国際展開・都市間連携等)

平成27年度の取組総括

4年目に入り、事業によって進捗状況に大きな差が見受けられるが、各事項を踏まえて引き続き実現に向けた取り組みを行っていく。

・エココンパクトシティの形成に関しては、防災集団移転を希望する世帯の移転が概ね完了した。・千年希望の丘の造成事業に関しては、丘3基を復興交付金で築造した。(長谷蓋地区3基)また、二野倉地区において5月30日に市内外より約6,000人が参加し約5万本の植樹を行った。・自然エネルギーによるエネルギーマネジメントシステムの構築については、4月に売電を開始した。EVステーションの設置及びEVバス導入のための試験的な取り組みとして電気自動車2台導入し、充電設備の設置を行った。・健康・医療産業集積地の整備に関しては、平成26年度に実施した矢野目地区住民及び地権者による検討組織を立ち上げるとともに、意見交換やワークショップ等を通じて土地利用に向けた意見整理を行った。これらを踏まえたうえで、矢野目西地区における土地利用計画を策定し、今後の開発イメージの具体化に向けた検討を行った。・医療福祉情報ネットワークによる予防医学推進事業に関しては、エココンパクトシティに内ICTを活用した医療福祉情報ネットワークを構築することについて2014年度に導入を見送っており、その後も検討を重ねているが前進には至っていない。・次世代アグリビジネスの展開においては、電気自動車用充電ステーションの設置場所等を変更して研究の継続を行ったことや低コスト・省エネルギーの経営に向けて、土地利用型農業での先端技術研究を行った。

4年目に入り、事業によって進捗状況に大きな差が見受けられるが、各事項を踏まえて引き続き実現に向けた取り組みを行っていく。

・エココンパクトシティの形成に関しては、防災集団移転を希望する世帯の移転が概ね完了した。・千年希望の丘の造成事業に関しては、丘3基を復興交付金で築造した。(長谷蓋地区3基)また、二野倉地区において5月30日に市内外より約6,000人が参加し約5万本の植樹を行った。・自然エネルギーによるエネルギーマネジメントシステムの構築については、4月に売電を開始した。EVステーションの設置及びEVバス導入のための試験的な取り組みとして電気自動車2台導入し、充電設備の設置を行った。・健康・医療産業集積地の整備に関しては、平成26年度に実施した矢野目地区住民及び地権者による検討組織を立ち上げるとともに、意見交換やワークショップ等を通じて土地利用に向けた意見整理を行った。これらを踏まえたうえで、矢野目西地区における土地利用計画を策定し、今後の開発イメージの具体化に向けた検討を行った。・医療福祉情報ネットワークによる予防医学推進事業に関しては、エココンパクトシティに内ICTを活用した医療福祉情報ネットワークを構築することについて2014年度に導入を見送っており、その後も検討を重ねているが前進には至っていない。・次世代アグリビジネスの展開においては、電気自動車用充電ステーションの設置場所等を変更して研究の継続を行ったことや低コスト・省エネルギーの経営に向けて、土地利用型農業での先端技術研究を行った。

委員からの取組全体に関する評価

○計画の進展は十分とは言えないが、玉浦西地区や千年希望の丘の完成は高く評価する。今後は、特に、健康医療産業やアグリビジネスにおいて、経済的価値における効果を期待する。

○実施された内容だけでなく、その結果どのような成果が得られたのかを発信することは重要。

○メガソーラーについて、税収や雇用効果をカウントして経済的価値とするのが良い。被災地域はFITも活用し軒並みメガソーラーを行っている。環境に経済的価値を付与した好事例となるので、経済的価値として検討いただきたい。

○エココンパクトシティは日本の市町村及び海外へ好事例として発信できる取組と評価している。千年希望の丘はやはり、現時点(数年経った今)で全国から12,000人を植樹際に呼び込めた点が評価できる。更に期待したいことはやはりこれからの経済。農村部の統合で効率を高める。空港に近いアドバンテージを利用した産業育成をする等が必要。仙台空港と同規模の、世界の他の地域の空港を調査し、そこから得られる情報を勘案すると、空港を活用した産業づくりの可能性は広がってくる。

海外では、これだけ空港に近いと活発な経済が行われていて、物流企業、生産企業などが蓄積されてくる。若い人を呼びたいのであれば、若い人が働く環境を整えないといけない。